



愛川ふれあいの村8月の風景

平成26年8月 自然のたより

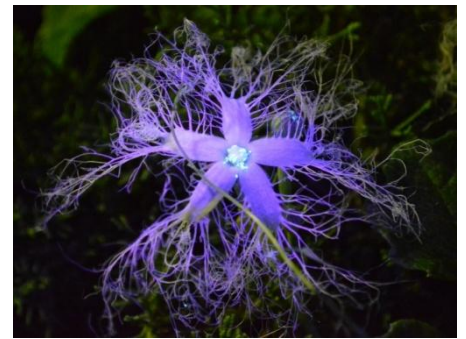
8月前半は抜けるような青空と肌に刺さるような日差しに、夏本番を感じます。夜になると夏の風物詩のセミが羽化している場面や、夜に咲くカラスウリの花など、その瞬間でしか見られないものがたくさんあります。お盆を過ぎると暑さや日差しも和らいで過ごしやすくなり、徐々に秋の訪れを感じます。



セミの羽化



明かりにやってきたシンジュサン



紫外線に当てたカラスウリの花



チョウセンカマキリ



ヒラガラとミドリキバエ



綺麗な体色をしたオナガ



カメムシの飛び立つ瞬間



オオコブキコガネ



ヒナバタ



カハラカムシの産卵



ミスジガガンボ



クロクモエダシャク



ヤマトシジミ



蜜を吸うミツガハチ



ヤマイモハムシ

★ヒョウにそっくりなツマグロヒョウモン★

濃淡のはっきりした黄褐色が豹柄のように見えます。

梅雨が明け本格的な夏に突入した村では様々なチョウチョが舞っています。その中に「ツマグロヒョウモン」というチョウがいます。ツマグロヒョウモンは翅を開いたときの模様で雌雄を見分けることができます。漢字で書くと「褸黒豹紋」。「褸」とは着物の足元の端のこと。前翅の端が白と黒になっている方がメス。体が大きく、交尾中のオスを引っ張り上げながら飛行をする力があります。一方、オスは体が小さく、翅の全面が豹柄をしています。

閉じた時の翅は雌雄変わらず、濃淡の黄褐色と白と黒で見事な豹柄になっています。しばらく観察していると翅を開閉している姿が見られるでしょう。



★^{かえ}孵ってきた(!?) アカボシゴマダラチョウ★

クヌギにアカボシゴマダラチョウが蜜を吸いにやってきていました。

実は、今年の1月にエノキの幼木(ようぼく)で越冬していたアカボシゴマダラチョウの幼虫がいたのを確認しています。

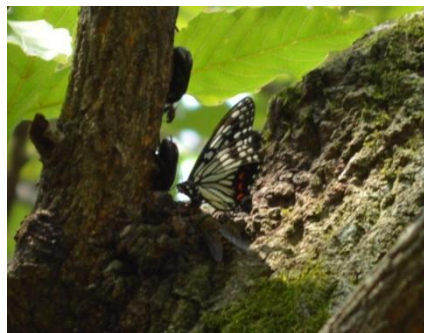
アカボシゴマダラチョウは中国原産のチョウで、人の手によって日本へ持ち込まれ、国内では奄美大島周辺にのみ分布していましたが、1997年以降、神奈川県で発見されてから急激に分布を広げているそうです。

種が限定された地域だけでなく、身近に見られることは嬉しいことですが、一方で昆虫の生態系が崩れてしまう可能性もあります。

飼育をする時は最後まで責任を持つことが大切です。生物同士のバランスが崩れないよう、私たちの行動も考えなければならないですね。



▲アカボシゴマダラチョウの幼虫



▲アカボシゴマダラチョウの成虫

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子

文章：大瀧裕基子・葉青芳 イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村
で、検索★

まだいる

